

「山の手空襲の集い」より

ともしび
共生委員会ニュース

2017 年度　2 号

2017 年 6 月 16 日版

共生をテーマにした〈グローバルウィーク　Ⅰ〉開催

昨年度より、高等部では年に 2 回の「グローバルウィーク」という 1 週間をもっています。

6 月に行われる〈グローバルウィークⅠ〉では「サーバントマインド」を、10 月に行われる〈グローバルウィークⅡ〉では「グローバルリーダーシップ」をテーマに、生徒一人ひとりが「サーバントリーダーとは何か」ということを考えるきっかけとなる場が用意されます。

今回のグローバルウィークⅠでは、昨年度の夏休みに宮古市に訪問した生徒や、今年の春にフィリピンに訪問した生徒が礼拝で自分たちの経験から感じたことを話し、昼休みや放課後には、自分たちの経験を全校生徒と分かち合うための展示などが行われます。また、スペシャルチャットルームでは「Hunger, Food waste」をテーマに 10 名のチャットリーダーたちと語り合う場も用意されます。ボランティア部の活動展示や、図書館キャンペーンも共生をテーマに行われる予定です。

この一週間を通じて、高等部の SGH 構想の柱である「サーバントリーダー」という考えが深く理解されることを期待しています。

くわしくは別途配布されるプリントを参照してください。

2017 年度　岩手県宮古訪問プログラム　参加者募集

日程：　8月1日（火）～8月3日（木）　2泊3日

訪問地：　岩手県宮古市

内容：　宮古市田老地区防災研修、宮古北高校、「みやっこベース」との交流など

申し込み・問い合わせ：　武藤（理科　物理・地学）、吉成（国語）まで

締切：6月 20 日（火）

募集人数：　15 名程度

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県宮古市を訪問し、震災遺構で被災の話を聞きます。

また、宮古北高校や地元で活動する高校生の団体「みやっこベース」と交流します。





「山の手空襲を語り継ぐ集い」

国語科　吉成　大輔

初夏を思わせる強い陽射しが降り注ぐ５月２８日（日）、渋谷区隠田区民会館にて第２回「山の手空襲を語り継ぐ集い」が開催された。高等部からは総合司会として３年のF.J.さん、朗読の代表者として同じく３年のI.S.さん、２年のK.M.さん、E.R.さんが参加した。

第一部「地図で伝える―青山・表参道界隈はこういう町だった」では、まず昭和２０年３月１０日のいわゆる「東京大空襲」の約二倍にあたる 3258ｔの焼夷弾が落された、５月２５、26 日の空襲について、地図やデータを用いた説明と体験談が語られた。被災された方のお話では、我々にとってなじみ深い青山、表参道の街が火の海になった様子が語られ、今高等部生が何気なく通り過ぎている街角に悲しい歴史が秘められていることを教えられた。

第二部の朗読会は、青山学院初・中・高等部の児童、生徒も加わった大規模なものであった。司会のFさんは丁寧な進行を、放送部の三人は三者三様の語り口で朗読を行い、聴衆の涙を誘っていた。会を振り返るアンケートでも「若い人々の心のこもった朗読で平和への思いが深まった」旨の声が多かったそうで、会におけるこの朗読の意義を実感させられた。

第三部の質疑では、主に被災された方と朗読者によるやり取りが行われ、当時の防災訓練の様子や空襲の様子、キリスト教学校ということで過酷な労働に動員された、青山学院の実情が明らかになった。「戦争を知っている者の悲しみを伝えたい」という体験者の方の意志は、その場で確かに受け継がれていたように思う。

会が終わり、原宿の真ん中にある会場から外に出てみると、日曜日の午後ということもあって先ほどより一層にぎわいを増した町並みの喧騒が目に飛び込んできた。今この眼前の人々に平和のありがたみを伝えたいという思いが強く湧き起こり、この会に触れる人が増えてほしいと切に願った。



「語り継ぐ」ことの意味

ＨＲ３０４　I.S.

もし、表参道を歩く人々に「表参道と聞いて何を思い浮かべますか？」と尋ねたら、多くの人々は煌びやかでファッショナブルなイメージを挙げるだろう。事実、現在そこは多くの有名ブランド店や「海外発」を掲げたお洒落なカフェなどが並び、最先端のファッションに身を包んだ若者であふれかえっている。

だが、その表参道にまったく別の一面があるということを、いったいどれくらいの人が知っているだろうか？おそらく、並木通りを手を繋いで歩くあのカップルも、石燈籠の前で待ち合わせしているあの子達も、皆知らない。並木通りが真っ赤に燃えたことも、石燈籠に焼けた人々の脂が滲んでいることも知らず、そもそも表参道で「戦争」があったということさえ知らない。

私は昨年に引き続き、「山の手空襲を語り継ぐ集い」に朗読者として参加させていただいた。今年参加して改めて感じたことは、「知ることの大切さ」である。私は去年のこの会で初めて、表参道も戦火に燃えたということを知った。「表参道」を一面的にとらえている大勢の中の一人であった私が、当時の表参道、また戦争がどのようなものだったのかを知り、考え、関心を持つようになった。経験者でない私たちに、戦争の痛みや苦しみを完全に理解することは不可能だ。だが、知ること、語り継いでいくことで出来ることはたくさんあるはずだ。

この「山の手空襲を語り継ぐ集い」は、私たち若者に「知る」機会を与えてくれる貴重なものだと思う。どうか、この会を通じてより多くの人が、当時の表参道や戦争のことを知るよう願わずにはいられない。

横浜・寿町のホームレスの方々への炊き出しに参加してみませんか？

日時：７月２８日（金）７：４５～１６：００

参加希望者は、６月中にボランティア部顧問の片山先生まで申し出て下さい。